

NECシステム建設 Inkra4000

データセンターの付加サービスを統合
次世代ネットワークシステムが日本上陸

サービス向上とコスト削減という相反するニーズに苦慮してきたデータセンターに向けて、運用コストと投資コストを大幅に削減し、サービス提供力を大幅に高める次世代ネットワークシステム『Inkra4000』が登場した。日本マーケットにおける同システムの販売を担当するNECシステム建設の小倉秀人氏と大川久夫氏にその詳細を聞いた。

本格的なブロードバンド時代を迎えた今日、eビジネスの展開に欠かすことができないデータセンターでは、セキュリティをはじめとする各種付加サービスの提供が求められている。その一方で運用および投資コストの大幅削減という課題も同時に実現しなくてはならない。サービスの向上とコスト削減という矛盾するニーズに対するソリューションとして登場したのが、次世代ネットワークシステム「Inkra4000」だ。

Inkra4000は、米国カリフォルニア州に2000年5月設立された「Inkra Networks,inc」が開発した「バーチャルサービススイッチ(VSS)」。日本マーケットでは、NECシステム建設が販売を担当し普及に務めていく。

高次元サービスと低コストを実現

これまでデータセンターでは、ファイアウォール、ロードバランサー、SSLアクセラレータ等をユーザーごとに個別に設置し、一連のシステムとして構築してきた。Inkra4000はこれらのサービスを1つの筐体に統合し、「バーチャルラック」と「HardWall™(特許出願中)」という独自の技術を用い、ユーザーごとに必要なサービスを柔軟に組み合わせて提供できる。

これにより、1つの筐体で1000ユーザーまで独立したサービスを提供、サ

ービス開始時間の大幅短縮、ゼロダウンタイムでのアップグレード、既存アプリケーションの流用を前提とした設備の有効活用 の4点が可能となった。

「それぞれのサーバ - 上にすべての必要なサービスの処理を行っていたものが第1世代だとすると、第2世代ではアプリケーション商品を多数組み合わせた集合型、そして、すべてのサービスを単一の筐体で実現するこのバーチャライゼーションが第3世代といえるでしょう(NECシステム建設・SI&サービス事業本部情報ネットワークマーケティング本部第一マーケティング部の大川久夫技術課長)との話の通り、従来複数の筐体を集合させて実現していたサービスを、「バーチャルラック」という仮想的なラック上で構成することにより、1つの筐体で複数の異なるサービスを実現させた、まさに「次世代」の名にふさわしいシステムだ。現在供給可能なサービスは、ファイアウォール、SSLアクセラレータ、ロードバランサー、VPN、Webアクセラレータ、レイヤ3スイッチの6種類。SI&サービス事業本部首都圏営業本部ニュービジネスマーケティング部の小倉秀人エキスパートは、「ニーズの高いセキュリティ機能を優先して、順次サービスを増やしていく予定です」と話す。そうした場合でも従来のように筐体を増やす必要がなく投資コスト、運用コストを大幅に削減できる。



NECシステム建設
SI&サービス事業本部
首都圏営業本部
ニュービジネスマーケティング部
エキスパート
小倉秀人氏



NECシステム建設
SI&サービス事業本部
情報ネットワークマーケティング本部
第一マーケティング部
技術課長
大川久夫氏

さらにNECシステム建設では、Inkra4000に引き続き、25ユーザーまで対応する「Inkra1500」の販売を来年から開始する。大川技術課長は、「企業グループ内ネットワーク管理部門など広義な意味でのデータセンターやエンタープライズ市場に大きなインパクトを与える製品です」と語る。国内では直販をはじめ、セールスパートナーシップを結び代理店が販売を行っていくという。ネットワーク機器の性能を評価する第三者機関である「TOLLY」からもその信頼性を保証されたInkra4000のテクノロジーをそのまま受け継ぐInkra1500の登場により、そのネットワークサービスシーンは一層拡大していくことだろう。

お問い合わせ先

NECシステム建設

首都圏営業本部
ニュービジネスマーケティング部
TEL : 03-5463-7573